

海外・現場最前線 からのお便り

海外で活躍する林野庁職員の近況を
シリーズで報告します



「ボヘミアの森林から ～チェコの森林と文化～」



在チェコ日本国大使館書記官

寺村 智

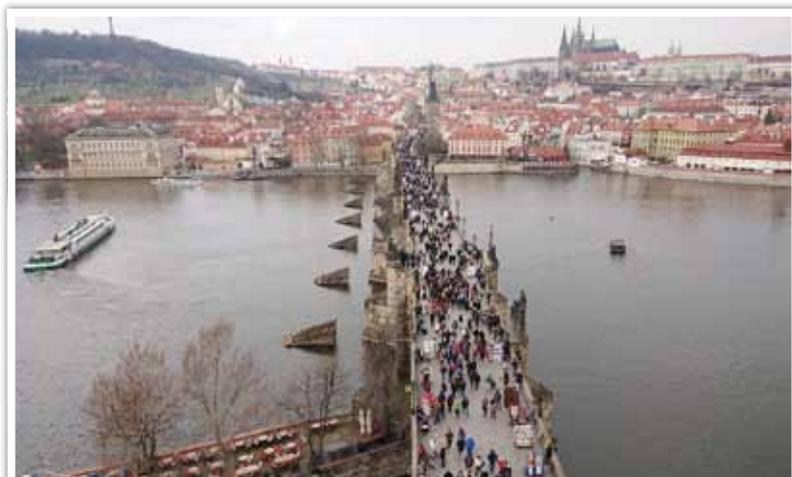


チ エコと聞くと、まずはプ
ラハ城やカレル橋といっ
た中世から保存されてきた首都
プラハやチェスキークルムロフ
の美しい町並み(1)、カフカ
やミュシャ、ドヴォルジャーク
といった作家・芸術家の出身地、
ピルスナービールの発祥の地と
いったことがまず思い浮かぶの
ではないでしょうか。でも、それ
だけではありません。日本では
あまり知られていないようにす
が、実はチエコは北海道ほどの
国土ながら、世界第4位(FAO、
2018年)の産業用丸太輸出を
誇る林業国でもあります。

チエコの国土の中央にあるボ
ヘミア盆地ではどこまでも麦畑が
広がる一方で、国境近くではヨー
ロッパトウヒの黒い森(2)が広
がっています。200年以上も前
から、ヨーロッパトウヒによる林
業が営まれてきました。現在も、
この森林から生産された丸太は、
その多くが近隣のドイツやオー
ストリアに輸出され、そこで製材
やCLT等に加工されて世界中
に輸出されています。もしかした
ら、日本で見かける製材もチエコ
の森林で育った丸太から作られ
たものかもしれませんね。

チエコも周辺の国々も、EU(欧
州連合)加盟国であり、ヒトとモノ
の移動を自由にするシェンゲン
協定(3)に参加しています。このた
め、丸太や製材、紙の原料となるパ
ルプは国境線に関係なくどんどん
流通しています。行政の面でも、E
U共通林業政策という枠組みが設
けられています。林業や木材産業
は、欧州大陸を大きな一つの単位
として動いている印象です。

チエコの人々は、自分自身で
「国民病」と言うくらい、キノコ狩
りが大好きです。秋に雨が降る
と、みんなこぞって針葉樹の森に
入り、ヤマドリタケというキノコ
を採ってきて、すぐに料理した
り、酔漬けにして保存したりして
います。とてもおいしいキノコで
す。自分も秋には、キノコ狩りを
しながらチエコ北部にある「チェ
スキーライイ」という奇岩(4)が
並ぶ森林をよく歩いています。そ
して、そのときにとても多くの
人々が森林を散策しているのを
見かけるところです。アルプス山
脈の北側に位置するチエコの森
林は、ササが生育しておらず、氷
河期に氷河に削られた比較的な
だらかな地形なので、ハイキング
にはもってこいの環境になって



2 チェコの世界文化遺産チェスキークルムロフは、周囲の森林がその美しさを際立たせている

1 プラハの町並み



5 プラハの石造りの建物でも、木がふんだんに使われている



4 プラハのクリスマスマーケット



3 チェコの森: チェスキーラーイの奇岩



6 ヨーロッパトウヒの“黒い森”

います。ベビーカーを持ってお子さんと一緒にハイキングしている人もいます。

そして、秋が終わり、クリスマスが近くなると、ログハウスで作られた屋台が並び、クリスマスマーケット(4)が始まります。木工の飾りも売られていて、チェコの木の文化、特にその細やかな加工技術にいつも感心させられます。中世からの石造りの建築が並び、世界文化遺産「プラハの旧市街」ですが、その建物の中のテーブルや椅子(5)は、木製でとても精巧な作りになっています。ポヘミアンガラスの精巧なガラス加工で有名なチェコですが、なかなかどうして、木工ももっと知られて

てよいのでは??と感じています。

近年、チェコの森林で大きな問題となっているのが、バークビートル^{※2}という昆虫による被害(7)です。2019年だけで国内のヨーロッパトウヒの2%がバークビートルによって枯死したとの推計もあります。国民的な関心も高く、連日のようにこの被害のことが新聞で報道されています。

チェコ政府も被害跡地への再造林支援等を講じているところですが、今後、この問題がチェコだけでなく欧州全体や世界全体の木材貿易にどう影響を与えていくのか、自分としても注目していく必要があると考えているところです。



7 バークビートルの被害は深刻である

※1 1985年に署名された参加国同士の国境管理を取りやめる国際協定であり、2020年2月現在、チェコやその近隣諸国など欧州の26か国が参加しています。

※2 ヨーロッパトウヒの樹皮を摂食し、その中で繁殖する長さ5mm程度の甲虫の一種です。これまでも定期的には大発生し枯死被害を発生させてきましたが、近年の枯死被害はチェコ国内では過去200年で最大の規模と言われています。